

病態やライフスタイルに合わせた治療ができる時代へ

糖尿病治療の注射薬についてのお話

梅雨入りを控え、不安定な気候が続いていますが、いつものお散歩や運動はできていますか？ 天候が悪い時は、食後に家の中で手軽にできる運動、例えばステップ運動などがおすすめです！糖尿病治療の3本柱は、食事療法、運動療法、薬物療法です。薬物療法には、内服薬（飲み薬）と注射薬による治療がありますが、今回は注射薬での治療をご紹介します。



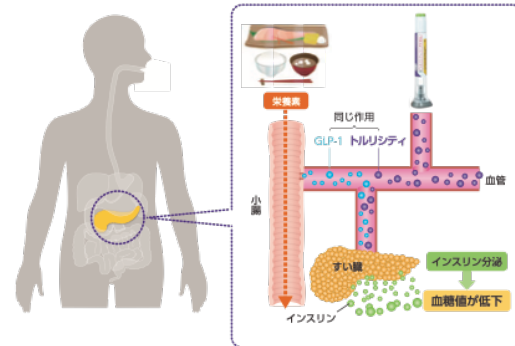
注射薬による糖尿病治療は、『インスリン』だけではないことをご存知ですか？

注射薬での治療には、「進行した患者さんの治療法」「一度はじめてたらやめられない」というネガティブなイメージがあるかもしれませんが、最近では注射薬の選択肢が増えていて、糖尿病の状態やライフスタイルに合わせて治療が出来るようになりました。

<注射薬の種類> 2種類の注射薬があります

・GLP-1 受容体作動薬

GLP-1はもともと私たちの体にあるホルモンで、食事をとった時に小腸から分泌されて、食後のインスリン分泌を促進して、食後の血糖値を下げてくれるように働きます。GLP-1 受容体作動薬は、体の外からGLP-1を補うお薬で、週1回のスタンプ型の注射製剤と毎日注射するタイプの注射製剤があります。



『体重を減らしたい！痩せたい！』方にもオススメです。

最近では、GLP-1 受容体作動薬の内服薬も開発されましたが、飲み方にすこし注意が必要な飲み薬です。ダイエットしたい方には、特にオススメです！

・インスリン

インスリン注射は、体の外からインスリンを補う治療です。膵臓の働きが弱くなり、インスリン分泌が足りなくなったときや、インスリンの働きが低下しているときに使います。

1型糖尿病患者さんには必要不可欠であり、内服薬を使用していても血糖コントロールが不良なとき、ケトアシドーシスという状態になったとき、腎臓や肝臓の働きが悪いとき、妊娠しているときなどは、インスリン注射が必要になります。患者さんの病状に合わせて、作用が発現する時間や持続する時間が異なる注射を組み合わせる1日1回～4回の自己注射を行い、治療していきます。

糖尿病治療の目標は、合併症を防ぎ、健康な人と変わらない寿命の確保、生活を送ることにあります。そのためには、早い時期から血糖値を上手に良好に保つことが大切です。適切なタイミングで注射薬による治療を始めることは、血糖値の改善につながります。また、治療によってコントロールが改善したら、治療法を見直すこともあります。

自分にあった治療の選択肢を知ること。それが、より良い血糖コントロールの第一歩です。



これからの夏、注射の保管方法に注意を!!…実は、熱に弱いんです

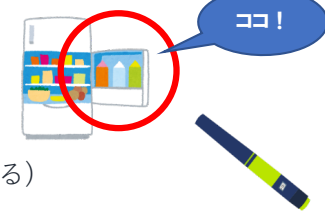


インスリンや GLP-1 受容体作動薬はタンパク質由来のバイオ医薬品であり、30℃以上で保管した場合、熱により成分が変性し薬効が低下する恐れがあります。これからの季節は特に保管状況に注意が必要です。では、どのように保管すればよいのでしょうか？

開封前(新品)の注射と開封後(使いかけ)の注射では保管方法が違います

開封前(新品)

- ◆冷蔵庫(2~8℃)で保管する
- ◆凍結しないよう、冷蔵庫のドアポケットに保管する
(冷凍室や冷気の吹き出し口近くには置かないようにする)
- ◆箱に記載してある使用期限に注意する



開封後(使いかけ)

- ◆開封後は室温(30℃以下)で保管する
- ◆夏は特に、自動車の中、直射日光が当たる場所、海水浴場やキャンプ場などは高温になりやすいため注意が必要
- ◆家の中でも、熱源のそば(トースターなど電化製品)は高温になることがあるので注意！
- ◆開封後、多くの製剤の使用可能期間は28日間です



ワンポイント
アドバイス

夏に手荷物として持ち歩く際は、保冷剤や保冷バッグを活用！

冷やした保冷剤を注射に直接触れないようにタオルで包み、一緒に保冷バッグに入れて持ち歩きましょう。500gの保冷剤は、約5時間にわたり30℃以下で保管することが可能です。保冷剤がない場合は、冷たい飲み物と一緒に入れるなどの工夫を!(^^)

